

4 エバーフレッシュ

葉を閉じる表情の豊かさ



<470>夜暗くなると葉を閉じ眠っているようになり、朝になると葉が開く。曾我さんは「1日でも表情が変わるので、育てている実感が持てとても楽しい」という。谷奥さんも「樹勢が弱まったときや環境が悪いときも葉を閉じる。エバーフレッシュを環境の

バロメーターとして提案している」という。

葉は明るい黄緑色で幹は細め。部屋を爽やかな雰囲気にしてくれる。水を十分に与える必要がある。ぐんぐん成長するので、テーブルで育てるなら小まめな剪定が必要。室内で気温が15度前後あれば、薄い黄緑色の綿毛に似た小さな花が咲くという。サヤは熟すと赤くなり、黒い種が入っており、和名は「アカサヤネムノキ」と名付けられている。

①マメ科②1000～3000円程度（3.5号）

5 サンセベリア

ボンセレンシス
ぷっくりとした葉が放射状に



<410>多くの種類があるサンセベリアのなかで、ボンセレンシスは放射状に伸びたぷっくりとした葉っぱが特徴。脇から子株も出てくる。白田さんによると「ボンセレンシスのなかでも『ドワーフ』など手のひらサイズの品種が量産され始めているので、テ

ーブル上で育てるには最適」という。

丈夫で育てやすい。文屋さんは「肉厚の葉の中に栄養分をためられるので、水やりの頻度は春と秋で2週間に1回ぐらい。冬と多湿による根腐れを避けたい夏は1カ月に1回で十分」という。ただ、光量が足りないと葉が痩せてしまう。「ずんぐりとした姿を維持するには、成長期に強い光が必要」（白田さん）。明るい場所に置くといいそうだ。

①リュウゼツラン科②1000～3000円程度（3.5号）

6 アスプレニウム

エメラルドウエーブ
海外でも高評価 日本発の品種



<390>爽やかな明るい緑色で、細かいウエーブがかかった長い葉が、ゆったりと鉢の中で広がる。福岡県にある杉本神籠園が独自に開発し、海外の見本市での受賞歴もある。欧米では「クリスピーウエーブ」という名前でも知られているという。日尾さんは「明る

いグリーンで、たくさん植物を飾っていても目を引くワンポイントになる」と評価する。

あまり大きくならずテーブル上で長い間楽しめる。佐藤さんによると「暗すぎると生育が悪くなるので明るいリビングやダイニングがおすすめ」。水やりについて杉本神籠園は「土が乾く前に株の中心から水をたっぷり与える。やや多湿を好むため、時々霧吹きを行うと喜ぶ」と紹介している。①チャセンシダ科②1500～3000円程度（4号）

家時間増え 再び関心高まる

新型コロナウイルスの影響で家で過ごす時間が長くなり、観葉植物を楽しむ人が増えている。東京都中央卸売市場における観葉植物の取扱量（販売実績）は2020年に5年ぶりに増加に転じ、21年も前年比9.5%増となった。

日本ではバブル景気でも観葉植物ブームが起き「パキラ」や「ベンジャミン」などが流行した。最近ではインターネットで買える観葉植物も増え、様々な種類が手に入りやすくなっている。

プロトリーフガーデンアイランド玉川店の我妻朋子副店長は「コロナで観葉植物に興味を持った初心者にはポトスなど定番品から始める人が多い。詳しい人では、斑入りの植物などビジュアル的に映えて、他の人が持っていない植物を集める人も増えている」と話す。

市場が活性化する一方で、安易に購入して枯らしてしまう人や売りっぱなしの業者も少なくなっている。生花店を営む谷奥俊男さんは20年に「屋内植物アドバイザー協会」を立ち上げた。「専門知識を持ったスタッフを全国に育て、お客さんに正確な情報を伝えることで、枯らしてしまう人を一人でも減らしたい」という。

7 フィカス

ベンジャミン バロック
カールした葉がとにかくかわいい



<380>フィカスベンジャミンはゴムの木の仲間、定番の観葉植物の一つ。なかでもバロックが最近人気を集めている。バロックはくるくるとした葉が多く茂り、部屋の中を華やかにしてくれる。川原さんは「観葉植物では非常に珍しい、カールした葉が

とにかくかわいい。芽吹きも強く剪定が楽しい」と評価する。

30センチ程度のテーブルサイズから、1メートルを超すサイズまで様々な大きさのものが流通している。インテリアに合わせて好きなサイズを選べる。ただ「部屋の照度によっては葉を落とすことがあるので注意が必要」（谷奥さん）。環境の変化によっても葉が落ちてしまうことがあるという。

①クワ科②1000～2000円程度（3.5号）

8 ユーフォルビア

ホワイトゴースト
手を挙げた人のような姿



<340>太い茎の両側から、上に反る形で葉を伸ばす姿がまるで手を挙げた人のような。茎や葉の色が白いのも特徴的で、それも加味すると幽霊のように見えることからホワイトゴーストの名前を持つ。川崎さんは「存在感が唯一無二。部屋がオシャレになる」という。緑色が多い観葉植物の中においても目立つ存在だ。

佐藤さんは「来客の際に『これ何?』と話題になるのも楽しい」という。

乾燥にも強いのでうっかり水をあげ忘れても大きな問題にはならない。健康に育てるには、よく日に当てる方がよいという。ユーフォルビアは種類が多くあり、大きさや形状など多様で個性的。少しずつそろえていっても楽しい。

①トウダイグサ科②2000～4000円程度（3号）

9 ポトス エンジョイ

定番植物の兄弟種



<320>観葉植物の定番、ポトスの一種。ポトスエンジョイは葉に白い斑が入っている。近年開発されて人気となり、急速に量産されているという。文屋さんは「白い斑が爽やかな印象。耐陰性があるので窓から離れた場所でも育てられる。初心者の人にも安心

してお薦めできる」。

ポトスは丈夫な上、ツルが伸びるので成長を実感しやすい。ポトスエンジョイは通常のポトスより成長が遅いとされるが、植物の販売サイト「HitoHana」運営会社代表の森田憲久さんは「ずっとテーブルに置いておくのは難しいかもしれない。剪定したり、台に載せたり、ハンギングにしたり、置き方は変えていくことを理解して購入を」と助言する。①サトイモ科②500～1000円程度（3号）

10 アグラオネマ

スノーホワイト
茎まで白い美しさ



<290>最大のポイントでもある白い茎が珍しく、緑色の葉と、その先にも爪のように白い模様が入っている。美しい見た目でも男女問わず人気があるという。日があまり当たらなくても平気なので、室内の窓から離れた場所における自由度があるのがうれしい。「模

様は葉の表側にあるため、見下ろす位置に置く方が美しく、テーブル上などの高い位置では見栄えがしない」（白田さん）という意見も。

成長スピードも比較的ゆっくりだという。ただ、寒さには弱く、冬は10度を下回らないように管理したほうがよいそうだ。佐藤さんは「冬越しが難しい。初心者には管理が心配な一面があり、手をかけてしっかり育てたい人にお薦め」と指摘する。①サトイモ科②1000～3000円程度（4号）

電子版有料会員の方はスマートフォンなどのカメラでこのQRコードを読み込むと、何でもランキングの過去記事（2019年7月20日付以降）をご覧いただけます。



ランキングの見方 数字は専門家の評価を点数化。価格は東京都内の複数の販売店から聞き取った参考値。写真は2位、8位、10位はTRANSHIP提供、7、9位はアクタス提供、6位はthe Farm UNIVERSAL提供。その他は鈴木健撮影。

調査の方法 観葉植物に詳しい専門家の助言を基に、見た目にも新しさがあって育てやすい23種類を選定。その上で専門家10人に「目新しさ」「葉の形など基本的なビジュアル」「育てる手間・負担の少なさ」などの観点から1～10位を選んでもらい、結果を編集部で集計した。（福山絵里子が担当しました）